

ごはん大好き

多賀城市立城南小学校 6年 佐藤 里 桜

私は小さいころからごはんが大好きでした。保育所や幼稚園のころは出かける時に、

「おむすび作って。」

と母に言って、いそいで作ってもらった記おくがあります。

「里桜はおむすび大好きだね。」

と言いながら、母がおむすびをにぎっていた笑顔を覚えています。

私の祖父は石巻に住んでいてお米を育てています。毎年秋になると、

「今年もおいしいお米ができたよ。」

と届けてくれます。新米は、たいている時からおいしいにおいが出ます。ジャーを開けると、湯気の向こうにピカピカに光っているお米がありました。一粒一粒がしっかりしていて、口に入れると、とてもあまくておいしいお米でした。父や母も、おいしそうに食べています。しかし、このころの私は、お米を育てることの喜びや大変さにはまだ気づいていませんでした。

私は小学5年生になり、多賀城で育てられていた古代米の苗を植えました。田んぼの中を歩いた時は、泥でとても歩きにくかったです。今は大型機械で田植えをしているけれど、昔の人は一つ一つ丁寧に植えていたんだと思います。田植えをしてからも成長の様子を観察したり、水の量を確認したりしました。祖父は、毎日田んぼを見ながらおいしいお米を作ろうと努力してきたことに気づきました。秋になり、かまを作って自分で刈り取りました。苗と比べてくきは太くなり、紫色のいなほをたくさんつけていました。自分で植えた苗が、立派に成長したことがうれしかったです。祖父も、収かくの喜びを感じつつ、お米のおいしさを一日でも早く味わってほしいと思いながら届けてくれたんだと思います。古代米を作って祖父とお米の感謝の気持ちが深くなりました。

しかし、今お米ばなれが多くなっていることを勉強しました。考えてみれば、お弁当におむすびではなくサンドウィッチを持ってくる人が多くなっているような気がします。また、海外のお米も日本に入ってきていることも知りました。母が笑顔でおにぎりや祖父が私においしいお米を届けてくれたときの顔を思い出しました。私は正直悲しい気持ちになりました。日本のおいしいお米が無くなってしまわないように、私はこれからもお米に感謝していきたいと思います。

最後にみなさんに伝えたいことがあります。私は歴史で弥生時代に米づくりが日本に伝わったことを知りました。日本人はお米とともに、文化を築き発展してきたと思います。社会は急激に変化していますが、日本の主食がお米であることを、ずっと忘れずに生活して欲しいと思います。そして、日本のお米が世界中に広がり、多くの国々から愛される食べ物になってほしいです。